ときがわカンパニー通信

特別版　2020年冬号
（1月19日配布予定）

左のロゴは、ときがわ町シェアハウス
まちんなか住民の堀越優美さんが作成

発行：ときがわカンパニー合同会社　文責：関根雅泰（せきねまさひろ）
住所：355-0343　埼玉県比企郡ときがわ町五明1083-1　電話・FAX：0493-65-5700
URL：　https://tokigawa-company.com/　メール：info@learn-well.com

ときがわカンパニーは、**「本屋ときがわ町」プロジェクト**を通じて、更に「ときがわ町に人が集まり、仕事が生まれる」状態を創っていきます。この「特別版」は、比企起業塾2期生　風間崇志さん、風間有加さん＠坂戸市が作成しました。

ようこそ「本の町ときがわ」へ！ ～「木」に「一」を足すと「本」になる～

「ときがわカンパニー通信 特別版」では、「本が買える・読める」場所を発信することで、ときがわ町の新たな「１ページ」を発見していきます。
冬号のテーマは「チャレンジ」。本を通じたチャレンジの現場をご紹介します♪

読　本が読める・・・A、B
買　本が買える・・・C、D

A　ときがわ晴耕雨読　（橋本 拓さん）

「農業をやる理由　『生活と仕事の一致』を求めて」

橋本さんがときがわ町を選んだ理由は、「ここに住みたい」と思ったから。四季が感じられる風景と静かに暮らせる環境に惹かれて、2019年4月に移住しました。もともと食べることが好きだった橋本さん。会社員だった頃は、同僚や得意先との付き合いで食事を楽しむことができないことに強いストレスを感じていました。「人間の体は食べたものからできている。そんな大事な食事に気を遣っていない」ことに気づき、食べ物をもっと大切にしたいと思うようになりました。現在は、有機野菜セットの販売や飲食店などへの直接販売などを行っています。スーパーでは手に入らない珍しい野菜が料理好きのお客様に人気だそう。

本の卸会社で働いていた橋本さんは、大の本好き。農業と本の掛け合わせは当初からイメージしていたそうです。本を通じて、野菜の購入や収穫体験などに来たお客様との交流を図ることを考えています。まさに「晴耕雨読」。語源も同じ “Agriculture”（農業）と ”Culture”（本）の融合が楽しみです！（お問合せは橋本さん携帯電話 090-1735-3675 まで）

B　昭和レトロな温泉銭湯　玉川温泉　（新井 志野さん）

「多様なお客様が混ざり合う　人が集まる場へ」

玉川温泉の特徴は、なんといっても「昭和レトロ」。館内には、昭和30代をイメージした独特の空気が流れており、昔からの常連さんだけでなく若い世代の方にとっても、新鮮さとどこか懐かしいと思える不思議な魅力があります。そのシンボルともいえるのが、玄関前に置かれたオート三輪「ミゼット」。これを見に訪れるファンもいるほどなんだとか。年明けには2台目のミゼット導入も予定されているとのことなので、乞うご期待です！

また、館内の「木の図書室」では、約200冊の漫画・書籍と35種類の雑誌を自由に読むことができます。こちらは昭和レトロとはがらりと変わって、「おふろcafé」を意識したおしゃれ空間。ときがわ産の木材をふんだんに使って地域性を出しながら、ゆったりくつろげる空間になっています。

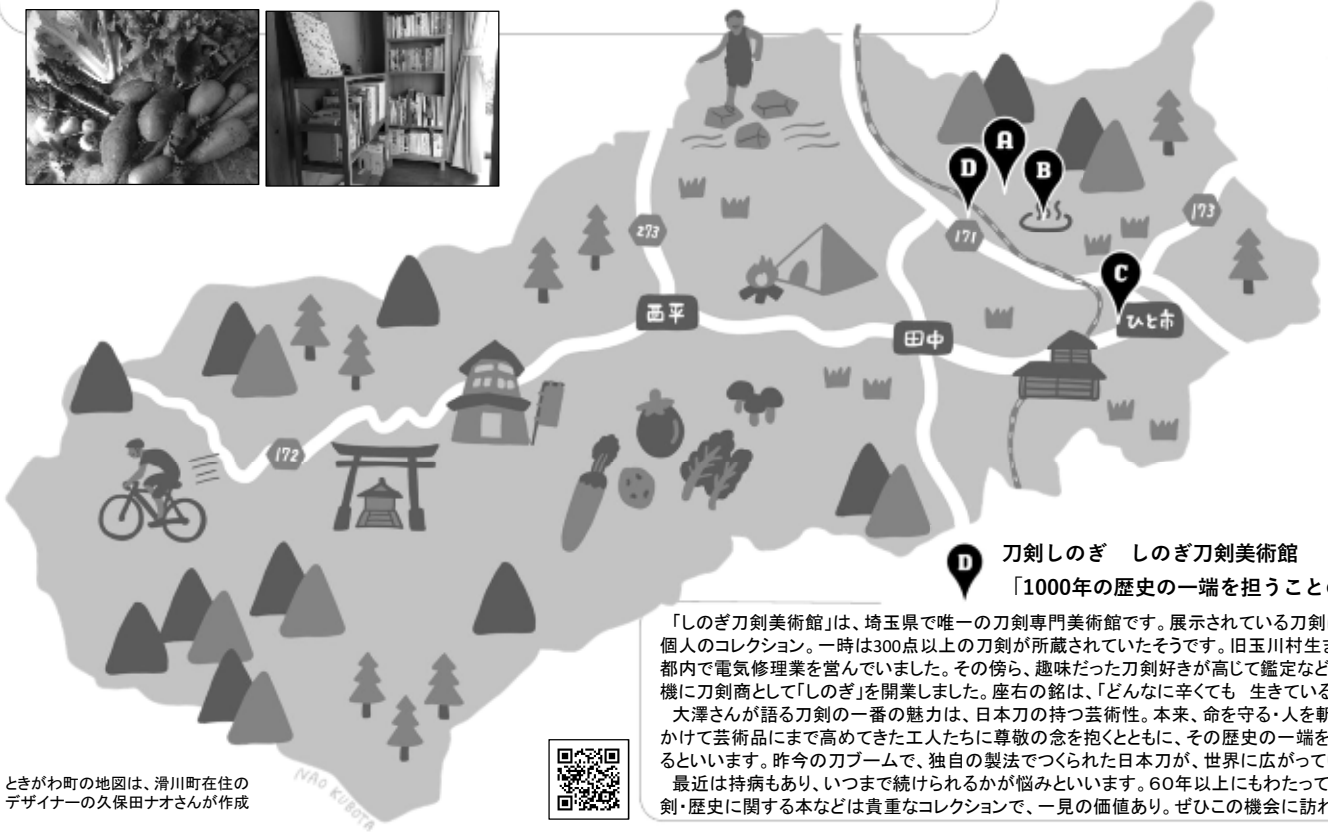
最近では、ときがわ産の桂木ゆずを使った「ゆずカレー」や温泉を使った化粧水、中川政七商店とコラボしたオリジナルてぬぐいなど、オリジナル商品の開発にも取り組んでいます。昭和レトロとおしゃれ空間を融合し、多世代のお客様が混ざり合い、楽しむ場として、さらなる発展を目指しています。

C　無人本屋 くらんなか　（伊藤達郎さん）

「本屋の無い町に、年中無休の本屋を。」

昨年9月までシェアハウス「まちんなか」に住んでいた伊藤さん。現在はシェアハウスを出て町内に住んでいますが、かねてから町で何かやりたいと考えていたそうです。そこで思いついたのが、ときがわ町に「無人本屋」をつくること。三鷹にある無人古本屋BOOK ROADを知ったことや「本屋ときがわ町」が始まったことなど、いろいろなことを追い風に感じ、無人本屋づくりをスタートさせました。実際にBOOK ROADを訪れたり、本屋ときがわ町に出店したりして、ノウハウを得るとともに、蔵の片付けや本棚の設置、商品となる本の寄付の募集も進め、2020年3月までのオープンを目指しています。

店は、「まちんなか」の敷地内にある蔵を活用。町の中心部にある立地を活かして、近所の方や学校帰りの子どもたちと、「まちんなか」住民との交流が生まれるような場所にしたいといいます。将来的には、「町の中で同じような小さな本屋がたくさん生まれたら」と語ってくれました。（裏面に、無人本屋特集）



ときがわ町の地図は、滑川町在住の
デザイナーの久保田ナオさんが作成

D　刀剣しのぎ　しのぎ刀剣美術館　（大澤都志夫さん）

「1000年の歴史の一端を担うことの誇りと幸せ」

「しのぎ刀剣美術館」は、埼玉県で唯一の刀剣専門美術館です。展示されている刀剣はおよそ100点で、すべて大澤さん個人のコレクション。一時は300点以上の刀剣が所蔵されていたそうです。旧玉川村生まれの大澤さんは、19歳で独立して都内で電気修理業を営んでいました。その傍ら、趣味だった刀剣好きが高じて鑑定などを学び、23歳で故郷に戻ったのを機に刀剣商として「しのぎ」を開業しました。座右の銘は、「どんなに辛くても　生きていることに感謝する」。

大澤さんが語る刀剣の一番の魅力は、日本刀の持つ芸術性。本来、命を守る・人を斬る道具であった刀を、1000年をかけて芸術品にまで高めてきた工人たちに尊敬の念を抱くとともに、その歴史の一端を担っていることに誇りと幸せを感じるといいます。昨今の刀ブームで、独自の製法でつくられた日本刀が、世界に広がっていくのが楽しみだそうです。

最近は持病もあり、いつまで続けられるかが悩みといいます。60年以上にもわたって収集した刀剣類や、自著を含む刀剣・歴史に関する本などは貴重なコレクションで、一見の価値あり。ぜひこの機会に訪れてみてはいかがでしょうか。

「無人本屋くらんなか」オープンまでの道

シェアハウスまちんなかの敷地内にある未活用の蔵が、「無人本屋くらんなか（案）」として蘇ります！

東松山市の廃業した本屋さんから、本棚と看板ともに“本屋魂”を継承し、2020年3月までのオープンに向けて、準備を進めています。

「無人本屋」の本の買い方（予定）

①買う本を選ぶ
（値段設定は300円と500円を予定）

②本の値段に応じて、ガチャガチャにお金を入れ、ハンドルを回すとカプセルが出てくる

③カプセルに入っている袋に買った本を入れ、持ち帰る

今ときがわで、カレーが“熱い”んです！

カレー好きのあなた、お待たせしました！！ 構想半年、ついにこの企画が実現しました。ここのところ、ときカレーブームの風が吹いているときがわ町。日本一の本の街・神保町にカレー屋さんが多いように、本とカレーは相性抜群がいいようです。取り上げたお店以外にも、個性的なカレーがたくさんあります。ぜひお気に入りのカレーを探してみてくださいね♪ Facebook「比企カレー通信」も盛り上がっています。

プラちゃんカレー

南インドから移住したご夫婦によるミールス（カレーや副菜のついた南インドの定食）。付け合わせの種類も多く、おかわり自由なのが嬉しい！

カフェギャラリー番匠＆ときがわカヌー工房

ときがわ産小麦のふわふわパンの甘さに、コクのあるカレーと玉子がベストマッチの焼きキーマカレートースト。

古民家カフェ 枇杏

スパイスからこだわった枇杏カレーはFruity＆Spicy！
大きめカットのお肉も食べごたえ十分。甘さと辛さにスプーンが止まりません！

しいの木

柔らかくなるまで煮込まれた牛すじカレー。牛すじから溶け出すトロットロのコラーゲンがたまりません。グリル野菜も香ばしくてヘルシー。

ときたまカフェ

スープタイプのスパイシーなカレー。好みでスパイスを追加できる小瓶セットが楽しい！ 大ぶりな肉と野菜にカレーがよくからみます。

高柳屋

なぜ、うどん屋さんのカレーはこんなに旨いのか。ちょい辛のとろみのあるスープで、ボリューミーな麺もペロリと完食です！（写真は中盛）

おすすめ本コーナー

取材させていただいた皆さまに、それぞれオススメの本をお聞きしました♪

『世界の野菜を旅する』（晴耕雨読　橋本さん）

世界中の野菜に関するエピソードや世界史において野菜が果たした役割などを紹介した本。国が違うと、同じ野菜でも違ったストーリーやイメージがあるところが面白く、野菜に対する愛着が深まるそうです。特に、お気に入りは、フランスで「貧乏人のキャビア」とされているというナスのエピソード。

『ゴルゴ１３』（無人本屋くらんなか　伊藤さん）

ゴルゴ１３といえば、依頼された仕事は必ず遂行するプロの殺し屋。非合法の仕事内容はともかく、仕事を絶対にやり遂げる責任感とプロ意識には学ぶことが多いといいます。お気に入りは、標的の追跡のため４頭の犬たちと行動をともにするエピソード（文庫版111巻「黄金の犬」）含蓄に富んだ巻末の一節は必見。

『火の鳥』（玉川温泉　新井さん）

宇宙が好きの新井さん。『火の鳥』には、壮大な宇宙の原理を感じるといいます。読めば読むほど、どんどん興味がわいてくる大好きな本です。特に好きなのは、人間ではなくナメクジが知能を持った世界を描いたストーリー。図書室の本をリニューアルする際には、ぜひ導入したいと考えているそうです。

『身近な日本刀』（刀剣しのぎ　大澤さん）

昭和52年に限定1000部で発行した自著。日本刀の歴史や成り立ち、用語の解説、全国の刀剣の紹介など、当時、自身の刀剣研究の集大成ともいえる力作。各地のさまざまな日本刀の事例が紹介されていて興味深いです。大澤さんの刀剣に対する想いの深さと熱さが凝縮された一冊。残部わずかのため、ご希望の方はお早めに！

発見！ディープなときがわ

第４回：ミソカハライ（ミソカッパライ）

交差点や道端で、20センチくらいの小さな御幣を見かけたことはないでしょうか？　これは「ミソカハライ」とか「ミソカッパライ」といわれるもので、毎年、大晦日に家の中や家族の身体をお祓いし、家の前や近くの交差点に立てます。立てた御幣は取り除くことはないので、まだ新しいミソカハライを目にすることができます。是非探してみてください！

「本屋ときがわ町」プロジェクトとは？

「ときがわ町に本屋をつくりたい」という想いからスタート。小さな本屋をたくさんつくり、町全体を「一つの本屋」に見立て、日本初の「Book Town（本の街）」を目指します。ときがわ町を「本を楽しむ人」が集える町にしていきます。

「本屋ときがわ町」は、毎月第３日曜日に、ときがわ町役場前ｉｏｆｆｉｃｅ（アイオフィス）にて開催しています！！

★★　編集後記　★★

春号から冬号まで約1年間にわたり、ありがとうございました！
特に、お忙しい中、取材にご対応いただきました皆さまには大変お世話になりました。皆さまとの出会いは、私にとってかけがえのない財産です。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。
今後も本とカレー、その他「変」なものを追いかけ続けます。
妻ともども、これからもときがわ町で活動していきますので、比企続き（引き続き）よろしくお願いします！！（本学び一家代表　タカシ）

ときのこちゃん

ご愛読いただき誠にありがとうございます！「ときがわカンパニー通信 特別版」は、冬号をもってひとまず完結ですが、「本屋ときがわ町プロジェクト」はこれからも続きます。ときがわ町を「本を楽しむ人」が集まる町にしていけるよう、これからも「本屋ときがわ町」をはじめ、本づくりワークショップなどなど、皆さまの応援をよろしくお願いします！
（「ときがわカンパニー通信特別版」編集部　風間崇志）